

## (2) 原地形の活用

原地形を活用している事例を紹介する。

外周道路の幅員を確保しながら、地形を大きく改変することなく、多様な植栽を行うことにより、豊かな緑空間を創出している。



既存の大径木を残しながら、すり鉢状の原地形に沿って植栽し、下部には水面を含んだ日本庭園を設けることにより、斜面地と日本庭園の一体的な空間演出を行っている。



傾斜地を階段状のオープンスペースとし、各階層に中木等を含む緑化をすることにより、潤いのある空間として整備している。各階層には、休憩スペースを設け、交流空間の確保をしている。





傾斜地は既存樹木を活用しながら緑化を行い、豊富な緑量を創出している。また、上部と下部は階段により連絡している。



傾斜地に既存樹木を含めた高木等で緑化するとともに、階段で連絡路を設けている。  
また、高低差を解消する石積みの壁面は、中木や草類により植栽を行い、元の傾斜地としてのイメージを継承する工夫を行なっている。



既存樹木を残しつつ、傾斜地を緑地として整備し、奥行きのある豊かな景観を形成している。  
手前を地被植栽により、明るく開けた空間とし、奥側の斜面地上の樹林地を見せる工夫を行っている。





高木、低木、草本類をバランス良く配植することにより、原地形がイメージできる緑豊かな空間を創出している。



高低差のある外周道路を傾斜で結び、その両側の傾斜地を高木等で植栽するとともに、水流等を用い、奥行きのある緑化空間を創出している。



傾斜地を高木や草類等により緑地として整備し、景観の奥行きを豊かにしている。





河川沿いの緑と連携し、良好な水辺の空間を形成している。



運河へ開いた緑を形成し、広々とした快適な景観を演出している。



みどりと運河の水面が連携し、潤いのある空間を形成している。





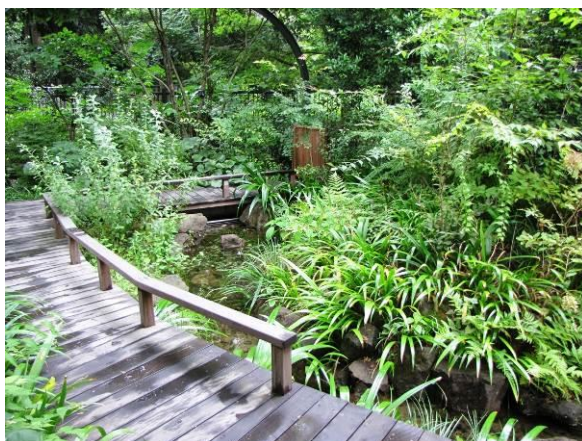
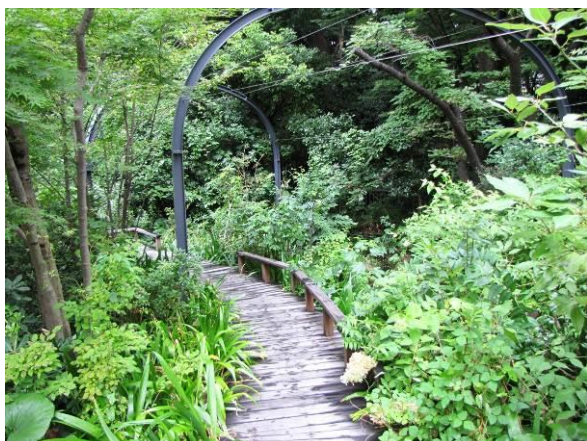
### (3) 生物多様性の保全

生物の生育・生息空間に配慮している事例を紹介する。

在来の植生群落を再現した緑化をはじめ、池や湿地、草地など多様な環境を整備し、多くの生物種が生育・生息できる空間としている。



在来の水生生物が生息可能な環境として流れを整備している。また、流れの脇にはデッキを設け、身近に生きものを観察できるようにしている。



研究所としての事例であるが、埋立地や屋上においても生きものに配慮した多様な環境を整備し、適切な管理をすることで、多様な生きものが生息できることを証明している。



写真提供: 清水建設株式会社技術研究所



写真提供: 清水建設株式会社技術研究所